

1. 保護世帯の家計、栄養及び学童の学力を調査し、その生活内容と、生活内容の影響をうけることが大であるといわれる学力との関連性を研究の目的とする。

2. 北九州市八幡区における保護世帯中、保護司の協力により11世帯を抽出、先ず、世帯での記入調査、次いで各日に調査員が各戸訪問を行い、記入の確認、記入洩れの指導をしながら一カ月間家計調査を行う。更に、その期間中の任意の一時期に栄養調査も併行し、家計調査の中に記入された食物購入量との照合により摂取栄養量を決定した。学童の学力は、その個人につき各学校の協力をえて知能指数並びに学力についての評価を行った。

3. (イ) 家計、収入は大部分保護費によるもので、世帯員の勤労所得は非常に低い。支出は、消費単位当り、エンゲル係数、記載内容いずれも最低生活線上、又は、それ以下である。家計分析についての記載は省略する。

(ロ) 栄養、各世帯とも熱量 2,000、蛋白 60 g 内外で本質的に栄養不足である。体位、健康状態共に悪いものが多い。

(ハ) 学力、5段階分類により普通以下と認められるものが多く、家計の貧困と学力には大きい関連性が認められる。